

高美小学校内 TM だより

R8.9.10.NO.16

2年1組の国語の授業におじゃましました。

★見通しをもちながら学習に向かう時間★

疲れの出やすい6時間目にもかかわらず、子どもたちは「がんばるぞ!」と意欲的に学習をスタートしていました。音読では「どんな読み方をしたい?」と問いかけるシーンが見られ、子どもたちの声から「たけのこ読み」をすることに決まりました。「読みたいところで立って読んでいい」「何回立ってもいい」と、子どもたちに委ねられている部分が多く、一人一人が自分に合った方法で学習に向かえるよう工夫されていました。本時のめあては「いつ・どんなしごとをしているのか、どんなくふうをしているのか考えよう」でした。毎時間同じめあてで学習を進めていることで、子どもたちは学習内容が変わっても何に着眼して読めばよいのかを意識しながら取り組んでいるようでした。

★ふりかえりを生かした学び★

授業の導入では、前時のふりかえりが共有されていました。先生が紹介する際には、自分のノートを開いて見比べるよう声かけられており、友だちの考えと自分の考えを比べながら聞く姿が見られました。ふりかえりは視点ごとに分類して紹介されていました。どんな視点でふりかえるとよいか参考にすることができるよう、短冊にして黒板に掲示されていました。子どもたちの考えを次の学習へとつなげようとする工夫が見られました。

★交流を通して考えを深める活動★

学習では、まず一人で考える時間が確保されていました。「何分いる?」と問いかけながら、自分で見通しをもって取り組めるようにされていました。先生は机間指導の中でも笑顔で声をかけ続けておられ、安心して発言したり挑戦したりできる雰囲気がつくられていました。その後は「ご近所タイム」が設定され、近くの友だちと考えを見合う時間となっていました。同じところを見つけたり、難しかったところを共有したりしながら、自分の考えを確かめる姿が見られました。終了間際には「待ってー!」という声も聞かれ、粘り強く取り組む様子が印象的でした。全体交流では多くの子どもたちが手を挙げ、自分の考えを伝えていました。

～まとめ～

授業では、前時のふりかえりを共有することから学習を始め、友だちの考えと自分の考えを比べながら、本時の学習へとつなげていました。また、「どんな読み方をしたい?」と問いかけたり、学習の進め方を子どもたちに委ねたりすることで、一人ひとりが自分なりの方法で学習に向かう姿が見られました。一人で考える時間の後には、友だちと考えを見合うことで、自分の考えを確かめたり、新たな気づきにつなげたりしていました。先生の温かな声かけに支えられた安心感のある学級の雰囲気の中で、子どもたちが自分の考えをもち、友だちと関わりながら、最後まで粘り強く学習に取り組む姿が印象的な授業でした。

中田先生、2年1組のみなさん、ありがとうございました。

